



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.818 2012年1月23日

ARIBの動き

M2M 標準化に向けた国際的な連携に関する公式表明

1月17日に、M2Mに関する標準化活動の国際統合に向け、ARIBを含む情報通信に関わる世界の主要な7つの標準化団体がコミュニケを発表するとともに、新組織の名称について投票が行われ、“oneM2M”とすることを決定しました。

コミュニケの内容について、日本語翻訳版と英語の原文を紹介します。

M2M 標準化に向けた国際的な連携に関する公式声明（日本語翻訳版）

情報通信に関わる主要な標準化団体(SDOs*、以下「私たち SDOs」と表記。)- ARIB、ATIS、CCSA、ETSI、TIA、TTA、TTC- は、M2M サービスが、市場に投入される無数のデバイスと M2M アプリケーションサーバを接続する多くの場合に、通信ネットワークを必要とすると考えており、様々なハードウェアやソフトウェアに簡単に組み込むことが可能で、コスト効率が良く、容易にかつ広範に利用可能な「共通 M2M サービスレイヤ」が必要であるとみなしてきました。そのため、私たち SDOs は、過去数か月間に及ぶ会議を通して、M2M 分野における協調的な標準化活動の必要性を確認し、共通の標準化ソリューションを共同で見出すと言う挑戦を行うことに合意しました。つまり、私たち SDOs は、M2M 標準化のためのグローバルなイニシアチブ（以下、「新組織」と表記。）を形成するための第一歩を踏み出したのです。

新組織は、複数の M2M アプリケーションに跨る共通のユースケースとアーキテクチャに基づき、世界的に合意が得られる M2M エンドツーエンド仕様書の策定に努め、その第1歩としてサービスレイヤの仕様書の作成を目指します。同時に、新組織は、運用費用及び設備投資の低減、市場投入期間の短縮、市場規模の拡大、アプリケーション開発の簡素化、サービスを高度に発展させるための世界的規模のネットワークの活用、国際的なビジネス機会の拡張及び加速、そして標準化作業の重複の回避等の目標に向かって、数多くの産業振興に資する仕様を策定します。加えて新組織は、M2M アプリケーションに関わる他の標準化機関やフォーラム等との協調作業にも取り組んでいきます。

私たち SDOs は、新組織への参加をオープンなものとし、様々な参画区分を設けて、あらゆる市場・産業関係者からの意見に柔軟に対応することで合意しています。また、私たち SDOs は、M2M に関連する産業界・市場からのニーズに対応可能なシンプルかつ効率的な運用体制を構築します。新組織は、第一目標である国際的な協調と統合を図りつつ、同時に地域毎の要求事項と相違点のバランスを考慮しながら適切な標準策定スケジュールの設定に努めます。

私たち SDOs は、新組織を 2012 年初めに設立し、その後に、急速に進化する様々な業界の躍進に応じて技術的作業を開始することに合意しています。

現在の参加SDOs*

新組織は、現段階では以下の SDOs の代表者から構成されます。

日本の Association of Radio Industries and Businesses (ARIB) および The Telecommunication Technology Committee (TTC)、米国の Alliance for Telecommunications Industry Solutions (ATIS) および Telecommunications Industry Association (TIA)、中国の China Communications Standards Association (CCSA)、欧州の European Telecommunications Standards Institute (ETSI)、韓国の Telecommunications Technology Association (TTA)。

連絡先*

ARIB: 佐藤孝平 (sato@arib.or.jp), 古賀正章 (koga@kddi.com)

ATIS: Susan Miller (smiller@atis.org), Steve Barclay (sbarclay@atis.org)

CCSA: Thomas Li (thomas.lili@huawei.com), Shizhuo Zhao (zhaosz@ccsa.org.cn)

ETSI: Joachim Koss (joachim.koss@cinterion.com),

Adrian Scrase (adrian.scrase@etsi.org)

TIA: Cheryl Blum (cblum@tiaonline.org), Herb Congdon (hcongdon@tiaonline.org)

TTA: Byoung-Moon Chin (bmchin@tta.or.kr), Yong Chang (yongchang@samsung.com)

TTC: 富田二三彦 (ftomita@ttc.or.jp), 高橋竜男 (takahashi@ttc.or.jp)

Global Initiative for M2M Standardization Communiqué

Major Standards Development Organizations Agree on a Global Initiative for M2M Standardization

Major Standards Development Organizations (the “SDOs”*) -- ARIB, ATIS, CCSA, ETSI, TIA, TTA, and TTC -- recognize that M2M services often rely upon communications networks for connectivity between the myriad of devices in the field and the M2M application servers, and have identified the need for a common cost-efficient, easily and

widely available M2M Service Layer, which can be readily embedded within various hardware and software. As a result, the SDOs, meeting over the course of the past several months, have also identified the need for a cooperative M2M community standards activity, and have agreed to jointly address the challenge of common standardized solutions. The SDOs have taken initial steps to form a global initiative for M2M Standardization.

This global initiative will seek to develop globally agreed M2M end to end specifications and reports with initial focus on the Service Layer using common use cases and architecture principles across multiple M2M applications. The initiative will develop specifications that will help drive multiple industries towards the goals of lowering operating and capital expenses, shortening time-to-market, creating mass-market economies of scale, simplifying the development of applications, leveraging the worldwide network for enhanced potential of services, expanding and accelerating global business opportunities, and avoiding standardization overlap. In addition, the initiative will focus on cooperative efforts with other standards organizations and fora, including those representing specific aspects of M2M applications.

The SDOs agree that participation in the global initiative will be open to interested organizations and parties to provide opportunities for various levels of participation and provide flexibility for inputs from all market segments. The SDOs will establish a simple and effective operational structure which is responsive to the needs of the various stakeholders. The initiative will seek to balance regional requirements and differences, and to address their respective timeframes, with the primary goal to support global harmonization and consolidation.

The SDOs have agreed that the global initiative will be established early in 2012 and will then initiate the technical work to meet the challenges of rapidly evolving industries.

Current Participating SDOs *

The global initiative has currently gathered representatives from: the Association of Radio Industries and Businesses (ARIB) and the Telecommunication Technology Committee (TTC) of Japan; the Alliance for Telecommunications Industry Solutions (ATIS) and the Telecommunications Industry Association (TIA) of the USA; the China Communications Standards Association (CCSA); the European Telecommunications Standards Institute (ETSI); and the Telecommunications Technology Association (TTA) of Korea.

Contacts*

ARIB: Kohei Satoh (satoh@arib.or.jp), Masaaki Koga (koga@kddi.com)
ATIS: Susan Miller (smiller@atis.org), Steve Barclay (sbarclay@atis.org)
CCSA: Thomas Li (thomas.lili@huawei.com), Shizhuo Zhao (zhaosz@ccsa.org.cn)
ETSI: Joachim Koss (joachim.koss@cinterion.com),
Adrian Scrase (adrian.scrase@etsi.org)
TIA: Cheryl Blum (cblum@tiaonline.org), Herb Congdon (hcongdon@tiaonline.org)
TTA: Byoung-Moon Chin (bmchin@tta.or.kr), Yong Chang (yongchang@samsung.com)
TTC: Tom Tomita (ftomita@ttc.or.jp), Tatsuo Takahashi (takahashi@ttc.or.jp)

第 180 回業務委員会を開催

第 180 回業務委員会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 24 年 1 月 18 日(水) 午後 2 時から 2 時 58 分まで
- 2 場所 当会第 2 会議室
- 3 議事概要
 - (1) 第 83 回規格会議の開催についての説明
 - (2) M2M に関する国際会議の審議状況についての報告
 - (3) 第 23 回電波功績賞表彰候補者の推薦依頼についての説明
 - (4) 平成 23 年電波利用懇話会の開催状況についての報告
 - (5) 第 3 回理事会等の予定についての説明

国際標準化の動向

第4世代移動通信システムの無線インタフェースの詳細仕様に係る 勧告案の承認について

1 月 16 日から 20 日まで、スイス・ジュネーブで開催された国際電気通信連合(ITU)無線通信総会(RA-12)において、SG5 会合で採択された第 4 世代移動通信システムの無線インタフェースの詳細仕様に係る勧告案(Detailed specifications of the terrestrial radio interfaces of International Mobile Telecommunications-Advanced (IMT-Advanced))が承認されました。

この新勧告は、LTE-Advanced 無線方式及び WirelessMAN-Advanced 無線方式の両方式で構成されています。

電磁環境委員会 広報部会 広報用ビデオ改訂作業班
主査 島田 正司

(KDDI株式会社 技術統括本部 建設本部 建設統括部
置局支援グループ 課長)



昨年は、我々の年代においては、経験をしたこともないような未曾有の大災害が発生し、改めて情報通信ネットワークの重要性が再認識されたところです。災害発生から既に10ヶ月を経た現在においても、被災地においては多くの方々が不自由な生活を余儀なくされ、また、関連して発生した事故の終息に至っては、今後、長い時間を必要とするとしています。1日でも早い復興を、心から願わずにはおれません。

昨今の情報通信の発展に伴い我々は、いとも簡単に情報を発信することが可能となり、また、必要とする情報を無造作に取得することができるようになりましたが、一方、それら情報には、無責任な個人主張や、誹謗中傷が多く存在することから、如何に得られた情報から、信憑性を有する正確な情報を選別するかが個人にとって重要な判断となります。

私は、電磁環境委員会の活動に参加し、電波の人体への健康悪影響に懸念をお持ちの方々の不安を払拭するための活動に従事し、書籍WG（ワーキング）、ビデオWG、委託研究WGなどのWGに参加しております。これらWGでは、電波利用の状況や、電波の人体への影響などについて、一般の方々に分かりやすく、また正確な情報を伝えることを念頭に活動しており、既に6年が経過いたしました。これら活動においては、一般の方々に“分かりやすく伝えること”の難しさを、身をもって体験いたしました。例えば、我々技術系の人間は、知らず知らずの内に専門用語（カタカナ）や数字に頼り文書を構成してしまうことから、一般の方々からすれば非常に難解な文書となってしまうこと。また、本来、口語で記述すべきナレーションなどの原稿を文語で作成してしまい、実際に録音したナレーションは、意味不明な説明となってしまった。など、ごく当たり前のことがそもそも出来ず、多くの失敗を経験し、多くの時間を費やすこととなりました。

今後はこれら経験を基に、的確で迅速な、また分かりやすい情報提供をメンバーと協力しながら展開することを心がけて行きたいと考えています。

電波産業会の発展のため、微力ではございますが尽力いたす所存でございますので、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp